

Study Abroad Fair 2015 参加

4月13日に Universiti Teknologi Malaysia (UTM) のジョホールバルキャンパスで Study Abroad Fair 2015 (SAF2015) が行われ、筑波大学クアラルンプールオフィスから岩本准教授と Tuan Azma binti Tuan Ismail 女史が参加した。このイベントは UTM International Office が交換留学を含む短期・長期留学やインターンシップ、サマースクールなど学籍中の留学や、海外の大学院での修学に興味がある学生を対象に海外留学を促進するために企画された。



SAF2015 出陣式(左から杉浦教授、Azma 女史、野村准教授、岩本准教授(文責))

SAF2015 では筑波大学の宣伝と説明のために、パンフレットや冊子の他、筑波大学オリジナルのバナーやテーブルクロス、のぼり旗、はっぴが用いられたが、これらは全てマレーシアに所要があった野村名可男准教授が日本からクアラルンプールオフィスに運搬して頂いたものである(重量物を遠路お持ち頂いた野村先生には御礼申し上げます)。

SAF2015 での学生への説明は1日間であったが、驚異の700名近くの学生が来訪し、大盛況だった。また、それぞれの学生の関心もかなり高く、岩本と Azma 女史ではとても捌ききれぬものでは無かったが、筑波大学で学位を取り UTM で教鞭を執られている Askari 先生が甲斐田直子助教からの Facebook での呼びかけで会場に駆けつけて下さり、3人体制で説明が行われた。特に Askari 先生のご自身の留学経験をもって語られる説明は学生にとって非常に有意義であったと思われる(甲斐田先生、Askari 先生に御礼申し上げます)。その結果、終了時間を待たず配布資料が全て無くなり、それでも人が絶えず、手元に残された1冊の資料で説明が続けられた。

学生の主な質問は自分の専門とマッチしている研究科はどこかや、奨学金のこと、入試のこと、生活費のこと、宿舎のこと、研究室選びのこと等であった。ただ当該の情報を持ち合わせておらず、明確な回答が出来ない場面もあったため、専門家の参加があった方が良かったと思われた。

今回は第一回開催として、筑波大学と芝浦工大の他、貴州教育庁代表(中国)、金烏工科大学(韓国)、高雄応用科技大学(台湾)、ダルムシュタット応用科学大学(ドイツ)、クイーンズランド工科大学(オーストラリア)、ケント大学(英国)、ヘルシンキ・メトロポリア応用科学大学(フィンランド)の8カ国9機関の参加に留まったが、今回の成功を背景に、来年以降も更に参加校拡大して実施される予定である。



ブースでの説明風景